

傷寒・金匱方劑解説 54 きー6

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
きー6	葵子茯苓散	<p>葵子（甘寒）16g・茯苓（甘平）3g                      上の3味を杵いて散となし、1回に2gを服用する。1日3回、                      本方を服用して小便が利すれば癒ゆる。</p>
	婦人妊娠病脈証併治第二十第8条（金匱要略）	
	<p>「妊娠水気有り、身重く小便利せず酒<sup>さいせき</sup>漸悪寒し起きれば即ち頭眩するは葵子茯苓散之を主る。」</p>	
	<p>解説 妊娠中体にむくみが来て、身が重くてだるく、小便の出が悪く、時々背中に水を浴びせられた様に寒気がし、急に立ち上がると頭がグラグラとして気が遠くなるものは、葵子茯苓散が主治する。</p>	
	<p>葵子茯苓散証                      新古方薬囊によれば「妊娠中からだ中に腫みがきて、からだが甚だたいぎで、小便が出ず、或は出ても極めて少なく、時々背中へ水を浴びせられたように寒気がし、急に立つとグラグラとして頭が軽くなり気が遠くなるもの。」と記されている。</p>	